

カモミールにふっくらとやわらかい肌に導く効果を発見

ノエビアは、キク科植物に肌のハリや弾力に影響を与える成分グリコサミノグリカンの産生促進効果があることを発見しました。来春、この研究成果を応用した商品を発売する予定です。

日本生薬学会第55回年会にて発表

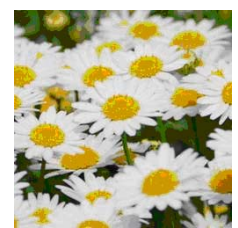
株式会社ノエビア（最高執行責任者：大倉^{たかし} 俊）は、キク科シカギク属の「ジャーマンカモミール」のエキスをを用いて、肌に対する作用について研究を進めてきました。その結果、「ジャーマンカモミール」は肌において保水、ハリや弾力に関わる真皮の基質成分グリコサミノグリカンの産生を促進させる効果があることを見出しました。また、キク科ローマカミツレ属の「ローマンカモミール」はグリコサミノグリカンを分解する酵素ヒアルロニダーゼの活性を抑制する効果があることがわかりました。この研究成果を2008年9月19日に長崎大学（長崎市）で行われる「日本生薬学会第55回年会」にて発表します。また、この成果を来春発売の商品に応用する予定です。

【ジャーマンカモミールとローマンカモミールとは】

民間療法として古くから用いられており、お茶や精油などとしても使用されています。白い花と黄色い花芯を持ち、羽根状の葉をしていて、同じような形状をしています。しかし、含まれている成分は異なっていることから、肌に対する作用も異なるのではないかと考え研究を進めました。



ジャーマンカモミール



ローマンカモミール

【研究の背景】

真皮は線維芽細胞、コラーゲン、エラスチン、そしてその間を埋めるグリコサミノグリカンなどから構成されています。グリコサミノグリカンは水を抱え込むことで肌にふっくらとしたハリと弾力を与える役割を担っています。しかし、年齢とともにグリコサミノグリカンの量は減少し、加齢とともに肌が硬くなる原因のひとつであると考えられます。そこでグリコサミノグリカンの産生を促進させることで、ふっくらとしたやわらかい肌に導くことが出来ると考えました。

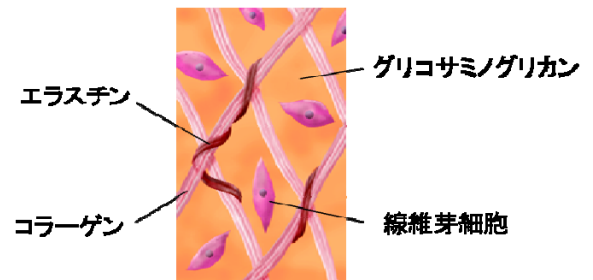


図1 真皮の構造

【研究の成果】

グリコサミノグリカンの産生量を調べたところ、「ジャーマンカモミール」エキス添加により、顕著に増大することがわかりました。また、「ローマンカモミール」はグリコサミノグリカンを分解する酵素ヒアルロニダーゼの活性を顕著に抑制することがわかりました。

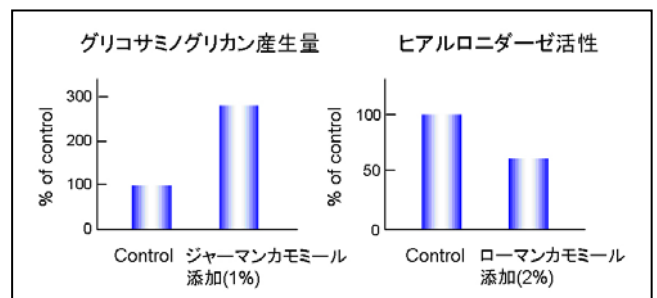


図2 各試験結果

《このリリースに関するお問い合わせ》

TEL 03-5561-6032 FAX 03-5561-8616 pr@nl.noevir.co.jp 広報・IR部 市山・森山・須貝
株式会社ノエビア：東京証券取引所市場第二部（証券コード 4916）